

私の視●点



熊岡 路矢 日本国際ボランティアセンター(JVC)前代表理事

1月16日から25日にかけてヨルダンを訪問し、イラク国内の治安と人道的必要についての調査を行った。国連機関や非政府組織(NGO)、ヨルダン在住イラク人など約70人に会った。JVCも一員であるJIM-NET(日本イラク医療支援ネットワーク)が支援を行っている、イラクから治療に来ている白血病の子どもとその家族からの聞き取りも含まれる。

イラクでは、米軍侵攻以来、治安、経済、生活状況のすべてが悪化しているが、06年は爆弾事件による犠牲者が増え、武装勢力に

「最良のケースA」では、イラク国内で民主的統合が進む。平和と秩序が確立される過程が進む。この180万人の避難民に追加、現在毎月約10万人の緊急避難が止まらない。私は03年1月、「戦争前夜」のフセイン政権下のイラクを訪れたが、少なくとも「破壊状態が続く」「内戦状態」

5、6月には、肝炎、赤痢、コレラなど感染症の流行が予想される。「最悪のケースC」は、無政府状態への社会崩壊である。国内でも国外へも人々の移動が加速し、政府およびイスラム社会固有の相互扶助も機能しなくなる。この場合、安全上の問題と

◆イラク情勢 緊急人道支援なお必要

「緊縮国家」ではなかった。が悪化しなくても、電気など基礎的な生活インフラが崩壊し、劣悪な生活条件下の人々のために、飲み水・生活用水、食物、基礎保健医療などの支援拡大が必要となる。避難民には保護と社会サービスを提供しなければならぬ。水・衛生状態の悪化と、季節的にも

多くの困難により、国際支援は実施し難くなる。多くの人道援助団体はBを前提に活動を考えているが、イラクがBにとどまるかどうか予断を許さない。他方、南部イラクの農村など外国軍隊が不在で、かつ単一の政治勢力しかない地域では、最低限の保健・

R(国連難民高等弁務官事務所)は国際緊急アピールを行い、避難民の保護、生活基本キットの配布などを行っていた。ある欧州NGOでは緊急救援として、銃創・骨折・爆発によるやけどなどに対応。35ヵ国から934までの6種類の基本医療キットを用意し、野戦病院化しているバグダッドおよび周辺18の病院に提供している。

国による地域外交も必要である。また日本を含む国際社会は、バグダッドを中心に広大な地域が、いまは復興の段階ではなく、緊急状態であり、緊急人道支援が必要な段階だということを認識すべきである。